




目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針 1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める											
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題		
		事業・施策内容		取組結果					実績等			
調査・把握 地域で大切にされてきた伝承や資料など、既往調査において十分に調査・把握が進んでいない分野があります。貴重な財産である文化財が、その存在や価値を知られないまま、消滅、散逸してしまう事態を避けるため、今後も市民や事業者等と連携し、幅広い文化財を掘り起こす取組が必要です。	Act.1 み つ け る	文化財の掘り起こしを目的とした市民ワークショップ	協議会							計画期間中、毎年度 3 回程度のWSを開催した。WSでは、活発な意見交換や活用方法の議論がなされ、市民の文化財への理解を深めることにつながったほか、参加した市民の意見を基に、関連文化財群とストーリーを設定することができた。	WSでの意見は主に関連文化財群とストーリーの設定に活用してきたが、今後、関連文化財群を設定以外の取組についての検討が必要。 また、R6年度には、若年層（20～30代）を対象としたワークショップを実施（参加：16人）したが、今後をも若年層を含めた幅広い年齢層や新たな関心層を生み出すことが必要。	
		市民等が文化財を掘起こし、観光・地域づくりなどの活用方法について意見交換を行うワークショップ										
		文化財調査の情報更新・追跡調査	札幌市							令和 4 年度に、未指定・未登録文化財のうち、文化財保護制度以外の制度（札幌景観資産、さっぽろ・ふるさと文化百選、北海道遺産等）の複数から指定や選定を受けている文化財（8 件）のうち、建築年が古い 3 物件について、指定・登録の該当可能性の調査を実施した。令和 5 年度には、平成27～29年度で調査した建造物163件（将来資産13件含む）をベースに、各建造物の現況調査及び価値評価を行い、指定・登録の該当性の調査を実施した。 R6年度は調査実施なし。		文化財保護制度以外の制度の複数から指定や選定を受けている文化財の、残り 5 件について、追跡調査が必要。 また、これまでの調査は有形文化財が中心となっており、他の類型の調査が実施できていない。
		既往の文化財調査の情報更新や追跡調査により文化財の状況を適切に把握										
文化財保護指導員等による現地調査	札幌市							市指定文化財やさっぽろ・ふるさと文化百選について、毎年度、文化財保護指導員による巡視を行い、状況の確認を行った。	巡視を行う対象や、毎年度実施する調査件数などの計画を定めずに、適宜現地調査を行っていたことから、年度によっては実施内容にばらつきが生じてしまった。			
市内文化財の適宜巡視と、現状と課題の把握等												



目指す姿

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針 1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める									
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果					実績等	
共有・発信 現状では、札幌の文化財の価値や魅力が市民一般に広く共有されているとはいえません。文化財 に関する情報へのアクセス環境が整備されておらず、保存・活用の当事者が必要とする文化財に関する様々な情報が、関係者の間で十分に共有されていないものと考えられます。	Act.2 共有する	文化財情報のデータベース化	札幌市	<div></div>					令和 2 年度に札幌市内の指定・登録文化財、さっぽろふるさと文化百選、歴史的建造物、郷土資料館資料について、「札幌市文化財データベース」を構築し、インターネットで公開した。 令和 6 年度からは、札幌市地域文化財についての掲載も開始した。	目標としていたデータベースの公開まで実施できた。
		市域にある文化財情報を一元集約するデータベース化と公開方法の検討		○	—	—	—	—		
		シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」の開催	協議会	<div></div>					令和 2 年度から毎年度、「関連文化財群とストーリー」に関する講演やパネルディスカッション、札幌の歴史文化にちなんだ工作等を体験できる市民参加型企画、札幌市の文化財の保存活用にかかる取組みや施設、団体等を紹介するパネル展示を行うシンポジウムを実施した。	幅広い世代の参加があったところだが、新型コロナの影響も大きく、目標参加人数1,800人からは遠い実績となった。 また、R6年度は参加人数の増加がみられたが、参加者満足度は低下してしまった。来場者の参加満足度の向上が課題。
		文化財や歴史文化の価値と魅力を普及・啓発するシンポジウム		○	○	○	○	○		
		札幌市埋蔵文化財センターの管理・運営	札幌市	<div></div>					埋蔵文化財保護に関する相談・協議対応、遺跡の発掘調査を実施。埋蔵文化財展示室では、企画展示を実施。	埋蔵文化財の保護を法令に基づき適切に進めていく必要がある。
		埋蔵文化財保護に関する相談対応や遺跡の発掘調査、展示室における埋蔵文化財の常設展示		○	○	○	○	○		

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

基本方針1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める

課 題	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度						取組内容	取組課題
				取組結果							
		事業・施策内容						R2	3	4	
		地域資源の魅力発信	札幌市							【中央区】 中央区内のスポットを巡るクイズラリーやキーワードラリーなどの周遊企画を通して、参加者に地域の歴史・文化などの魅力を体感してもらう事業を実施。 R3年度：ちゅうおうクイズラリー（大倉山ジャンプ競技場、札幌市円山動物園、札幌市資料館、札幌もいわ山ロープウェイ、市電） R4年度：ちゅうおう歴史ラリー（旧永山武二郎邸及び旧三菱工業寮、札幌市時計台、さっぽろテレビ塔、豊平館、埋蔵文化財センター） R5年度：まち「推し」ラリー2023（札幌市資料館、札幌市時計台、札幌市円山動物園、札幌もいわ山ロープウェイ、豊平館） R6年度：ちゅうおうスタンプラリー2024（札幌市資料館、旧永山武二郎邸及び旧三菱鉱業寮、札幌市図書・情報館、円山公園パークセンター）	R5年度に比べてR6年度は参加人数（応募者数）が455人増となり、アンケート集計結果からも満足度が上昇（R5:89.8%→R6:90.5%）した。R5年度に課題としていた30代以下の参加者数も上昇し、特に10歳未満の世代の参加率が高くなったことから、参加者を増やすための取組みによる効果があったと考えている。その要因として、手法の変更（クイズラリーからスタンプラリーに変更）、参加しやすい周遊スポットの設定、付属企画の追加により参加者の興味関心を高めることになったと考察する。 次年度は、子育て世代の参加者の増加を目指すために、より魅力的な周遊スポットの選定等や広報方法の改善等に取り組んでいく。
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		—	○	○	○	○			
		地域資源の魅力発信								【北区】（藍栽培の歴史伝承関連） ・藍の種の区役所及び各コミュニティ施設での配布。（R3～R6） ・「藍栽培の歴史を学ぶ授業」の実施。（R3～R6）（R6実績：教育大附属中学校） ・「藍栽培の歴史を学ぶ授業と藍染体験授業の実施」（R5～R6）（R6実績：三育小学校、星槎さっぽろ教育センター、英藍高校） ・北区「藍栽培」の歴史広報用リーフレットの作成及び区役所・各まちセン・各コミュニティ施設での配布。（R4～R6） ・ぽっぴいフェスティバルに出展し、藍染作品の販売とパネルの展示、リーフレットを配架。（R6）	
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	○	○	○	○	【北区】（藍栽培の歴史伝承関連） ・R2：コロナ禍によりすべて中止 ・R3：「藍栽培の歴史を学ぶ授業」篠路西小生徒142人 ・R4：「藍栽培の歴史を学ぶ授業」英藍高校生徒30人 ・R5：「藍栽培の歴史を学ぶ授業と藍染体験授業の実施」札幌聾学校生徒12人、あいの里東小生徒8人 「藍栽培の歴史を学ぶ授業」英藍高校生徒27人 北大金葉祭北区ブース来場者約1,100人 ・R6:「藍栽培の歴史を学ぶ授業と藍染体験授業の実施」三育小学校生徒18人、星槎さっぽろ教育センター生徒7人、英藍高校生徒28人 「藍栽培の歴史を学ぶ授業」教育大附属中学校生徒108人 ぽっぴいフェスティバル「北区藍色の風」ブース来場者約900人		

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める									
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果					実績等	
				R2	3	4	5	6		
		地域資源の魅力発信	札幌市						【北区】（北区歴史と文化の八十八選関連） ・北区歴史と文化の八十八選コースガイドを小学校4年生に配布（R2～R6） ・案内板の修繕（随時） ・まち歩きイベントの実施（R2） ・北区歴史と文化の八十八選再整備事業の実施（R4） ・逸失する八十八選の映像記録（R5） ・八十八選記録帳の小学校配布、ウォーキングキャンペーンの実施、幌北小学校とのオリエンテーリング連携の実施（R6）	記録帳に関し、広報不足により作成達成者がいない状況となっている。
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	○	○	○	○		
		地域資源の魅力発信	札幌市						【北区】（北区農村歌舞伎の保存・伝承） 保存・伝承団体に対する補助（R2～R6） 保存・継承活動のPR（R2～R6） 北区共催「かぶきフェスタ」の開催（主催：新琴似歌舞伎伝承会）	【北区】（北区農村歌舞伎の保存・伝承） ・認知度の向上 ・担い手の確保と育成
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	○	○	○	○		
		地域資源の魅力発信	札幌市						【北区】（亜麻の魅力発見事業） ・アマとホップのフラワーロードの植栽（R2～R6） ・亜麻の歴史と市民活動のPR（R2～R6） 北区公式ホームページでの発信の充実（R2～R6） 亜麻ルシェ開催（R5～R6） 亜麻を使ったハンドメイド体験イベントを開催（R6）	・認知度の向上 ・イベントを通じた団体間のコミュニティ形成と活用
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	○	○	○	○		
		地域資源の魅力発信	札幌市						・アマとホップのフラワーロードの植栽 R6から市民との植栽活動を再開した。 ・亜麻の歴史と市民活動のPR 北区公式ホームページでの発信の充実 R6亜麻ルシェ来場者約2,000人 R6亜麻ルシェで、亜麻を使った体験イベントを開催した。	
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	○	○	○	○		

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

基本方針1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める

課 題	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度						取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果						実績等	
				R2	3	4	5	6			
		地域資源の魅力発信	札幌市	<div></div>						【厚別区】 令和２～３年度は新型コロナの影響により中止となったが、R4年度以降は１１月にサンピアザ1階光の広場にて「厚別歴史写真パネル展」を開催し、厚別の歴史にまつわるパネルの展示した。 そのほか、令和５年度に続き厚別の歴史を歩いて学ぶ「厚別歴史散歩」を実施した。（R２は「散歩マップ」を作成、R3・R4は新型コロナのため中止）。	【厚別区】 パネル製作を主導してきた個人から代替わりし、パネルに使用している写真やパネルデータの整理や保管方法、記載内容更新の検討が必要。 また来場者数の年代層に偏りが見られ、若い世代来場が少なかった。
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等		×	×	○	○	○	【厚別区】 パネル展来場者数　R４：約3,000人、R5：約3,000人　R6：約2,700人 厚別歴史散歩参加人数　R5：16人　R6：17人		
		地域資源の魅力発信		<div></div>						【豊平区】 ●環状通リンゴ並木 ・市立美園小学校総合学習への支援（地域団体（美園リンゴ会）の講話、リンゴ並木のリンゴを使った体験（袋かけ・文字入りリンゴ作成・収穫等） ・スポーツ団体（北海道コンサドーレ札幌、レバンガ北海道等）、円山動物園、児童福祉施設等へ、リンゴ並木で収穫されたリンゴの贈呈。 ・地域イベント参加者や豊平区役所来訪者（一般区民）へのリンゴ配布。	【豊平区】 ●環状通リンゴ並木 ・リンゴの木に病気が蔓延しており、薬の塗布や木の入替を実施しているが、抜本的な解決にはなっていない。
		地域の歴史文化情報のHPによる発信、区役所庁舎でのパネル展示、歴史記録映像作成、ワークショップ等イベントの開催等	○	○	○	○	○	【豊平区厚別区】 ・リンゴ収穫数2,706個（前年対比▲2,589個）。 ・配布及び贈呈について、円山動物園1,156個、スポーツチーム317個、児童養護施設120個、区内小学校80個、その他地域イベント等818個の実績（概数）。			
		アイヌ文化交流センター・アイヌ文化を発信する空間の管理運営	札幌市	<div></div>						アイヌ文化交流センターにおいて、アイヌ民族を講師とするアイヌ文化体験講座や小中高生団体体験プログラム・出前体験プログラムなどを実施した。また、アイヌ文化を発信する空間において、アイヌ文化への理解を深めるきっかけづくりや、道内のアイヌ関連施設の情報発信を行った。	・アイヌ文化交流センターについては、アイヌ民族に関する理解を深めてもらうために、アクセスや施設の魅力の向上、広報の充実を図りながら、展示の更新や各種事業の実施を通じて、来館者を増やすとともに満足度を向上させ、アイヌ文化への興味を高めていく必要がある。 ・アイヌ文化を発信する空間については、多くの市民や来札者が訪れる場として、引き続き維持管理に取り組むとともに、展示物の入替などにより、アイヌの伝統文化の魅力を広く発信していく必要がある。
		各種講座やイベント等による、アイヌ民族の伝統文化活動等の推進並びに保存・継承・振興等及び市民とアイヌ民族との交流による市民理解の促進		○	○	○	○	○	・小中高校生団体プログラム参加校数 R2：53校、R3：58校、R4：75校、R5：87校、R6：95校 ・小中高校生出前体験プログラム参加校数 R2：59校、R3：65校、R4：62校、R5：64校、R6：75校 ・アイヌ文化を発信する空間においては、展示品の一部入替を行うことで更なる誘客促進に努めたほか、映像等を活用し、来場した多くの市民や来札者に情報発信を行った。		

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針 1 文化財の価値や魅力を掘り起こし、広める									
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果					実績等	
				R2	3	4	5	6		
		観光情報発信事業	札幌市	→					公式観光情報サイト「ようこそさっぽろ」による、札幌の魅力的な観光コンテンツの情報発信。	サイトの見やすさ・検索のしやすさについて改善の必要があることから、リニューアルに向けた検討を行う。
		公式観光情報サイト「ようこそさっぽろ」による、札幌の魅力的な観光コンテンツの情報発信を行う。		○	○	○	○	○	「ようこそさっぽろ」総ページレビュー数 R2：3,206,239回、R3：3,780,812回、R4：7,170,462回、R5：17,793,854回、 R6：16,807,925回	
		学校教育における文化財や歴史文化の学習	教育委員会	→					社会科や総合的な学習の時間等において、学校の実情に応じて、博物館や地域の資料館等の郷土資料や、歴史的な建造物を教材とした学習を進めた。 札幌市以外が所有するものを含め、多くの小中学校が文化財を活用した体験的な学習を行った。	運転手不足によるバス便の減少や、バス代の高騰により、体験的な学習を行う際の移動費の保護者負担が増加している。
		総合的な学習の時間等を利用した地域の文化財や歴史文化を学ぶ機会の提供		○	○	○	○	○	昨年度と調査内容を変更したため、バスを活用して課外学習に行った場合の文化財を利用した校数のみの調査実績 【小学校】R5年度活用校数 バスを活用して北海道開拓の村に行った校数55校 【中学校】R5年度活用校数 該当せず。	

目指す姿

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針 2 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える										
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題	
		事業・施策内容		取組結果					実績等		
保存・伝承 特に民間の活動において、修理や公開にかかる費用の確保や、地域社会の高齢化に対応した次世代の育成を含めた、文化財を守り伝えるための担い手の確保が困難な状況にあります。また、人手や費用が限られる中、頻発する自然災害等の脅威などに対応した防災・防犯体制の維持・向上を図っていく必要があります。	Act.3 伝える	文化財施設の効率的な維持・保全	札幌市	R2	3	4	5	6	○計画的予防修繕等 平成29年から令和2年度にかけて、文化財施設（郷土資料館含む）に係る保全計画を策定。令和2年度以降、保全計画に基づき計画的な修繕を実施 ○耐震改修・保全工事 ・平成18年度の耐震予備診断を実施。「大地震時に倒壊する可能性が高い」という結果を踏まえ、清華亭（R5）の耐震改修工事を実施。旧黒岩家住宅の耐震診断、基本検討、実施設計（R4～6）を実施。 ・耐震改修予定：旧黒岩家住宅（R7以降工事）、琴似屯田兵村兵屋跡（R7年診断、R11工事） ○防火対策 ・令和3年度～：各文化財施設の特性に応じた追加防火対策を順次講じる必要があるため、高額な費用をかけずに軽微な修繕で電気火災の未然防止に効果がある「放電検出ユニット」や「感震ブレーカー」の先行設置を順次実施	・文化財施設は市有建築物保全推進事業対象外のため、これまで施設の事業ごとに保存修理を実施してきたが、全体保全計画を策定し計画的な修理をする必要がある。 ・文化財建造物としての価値を長く維持するためには、適切な日常管理と計画的な保存修理が必要である。2017年に「重要文化財（建造物）耐震診断・耐震補強の手引き」の改訂版が出され、全国的に地震に対する対策の必要性が再認識されている。 ・2021年には首里城跡での火災をふまえ、文化庁が防火対策ガイドラインを策定、文化財特有の燃焼特性（脆弱性）を理解し、文化財の特性に応じて個別に総合的な防火対策を講じるよう求めている。	
		市が所有する文化財等11施設の中・長期計画に従った保全工事・耐震化		○	○	○	○	○			
		郷土資料館の維持・管理		札幌市	<div></div>						地域の保存団体が郷土資料館を開館するための市の土地や建物の貸付等を行うとともに、施設の修繕を実施して館の維持・管理の支援を行った。 土地又は建物が市所有の郷土資料館の数：13館 修繕内容：消火設備更新、照明器具更新、配管修繕等
		地域の保存団体が運営する郷土資料館の維持・管理を支援			○	○	○	○	○		
		無形文化財等の保存・伝承支援	札幌市	<div></div>					市指定無形文化財丘珠獅子舞及びアイヌ民族の伝統行事であるアシリチェプノミの保存伝承事業に対する補助事業を実施した。 丘珠獅子舞保存伝承事業：丘珠神社例祭（毎年敬老の日）に獅子舞を奉納 ※R2、R3、R4は新型コロナウイルスのため中止。 アシリチェプノミ保存伝承事業：9月第2日曜に豊平川河川敷で新しい鮭を迎える儀式が行われ、国指定重要無形民俗文化財であるアイヌ古式舞踊等が披露。 ※R3は新型コロナウイルスにより無観客で開催	無形の文化財が後世に引き継がれていくよう、補助事業の継続が必要であり、また、市指定無形文化財である丘珠獅子舞の認知度（丘珠獅子舞を知っている人の割合：6.2％（R6年度文化芸術意識調査_回答者数1,211人））が低いことから、より多くの人に知ってもらうための周知広報の検討が必要である。	
		アイヌ民族の伝統行事のアシリチェプノミ、市指定無形文化財の丘珠獅子舞保存伝承事業に対する支援		○	○	○	○	○			

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市											
課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える										
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度						取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果						実績等	
				R2	3	4	5	6			
		文化財の防災・防犯対策	札幌市							札幌市内の国、道、市指定文化財の所有者に対して文化財防火デーの周知を実施し、防災訓練等の実施状況の報告を依頼するとともに、市所有の文化財施設では、消防署とも連携して消防訓練を実施し、消防機関への通報、初期消火等の対応の確認を行った。防犯対策としては、市所有文化財施設について、常駐警備や機械警備を委託した。 また、各文化財施設の特性に応じた追加防火対策を順次講じる必要があるため、高額な費用をかけずに軽微な修繕で電気火災の未然防止に効果がある「放電検出ユニット」や「感震ブレーカー」の先行設置を順次実施した（再掲）	首里城跡での火災を踏まえ、2021年に文化庁が防火対策ガイドラインを策定、文化財特有の燃焼特性（脆弱性）を理解し、文化財の特性に応じて個別に総合的な防火対策を講じるよう求めている（再掲）。 防災訓練を踏まえたさらなる防災意識の向上
		文化財防火デーに合わせて市所有の文化財施設で消防訓練を実施するとともに、所有者にも周知		○	○	○	○	○	○	○防火対策 ・ 市所有の文化財施設（12施設）での訓練実施数件数 R2：5件、R3：8件、R4：7件、R5：9件、R6：11件 ・ 放電検出ユニットや感震ブレーカーの先行設置（再掲） ○防犯対策 ・ 常駐警備、機械警備による防犯対策を実施	
		災害発生時の対応								文化財課の緊急連絡網のほか、各文化財施設との連絡体制を整備している。適宜変更の有無を確認し、最新の状態となるよう努めている。 文化財課の緊急連絡網の整備、各文化財施設の緊急時の連絡体制の確認	
		非常時の連絡体制を整備し、担当部署により迅速に文化財の被害状況を把握		○	○	○	○	○	○		
		景観計画推進	札幌市							札幌の景観を特色づけている自然や建築物、工作物、生活習慣などの景観資源について、景観法に基づく景観重要建造物・樹木や札幌市景観条例に基づく札幌景観資産、活用促進景観資源への指定・登録を進めるとともに、景観資源の保全・活用に資する工事に係る経費の助成や普及啓発等を実施する。 また、景観法や札幌市景観条例に基づく届出・協議の機会を捉えて、景観資源の周辺で行われる建築行為等が景観資源と協調したものとなるよう誘導する。	・現在の指定登録案件の発案は市が主体となっており、地域からの情報提供により指定、登録を行う仕組みへ移行していく必要がある。 ・指定、登録された案件の周知・活用の仕組みを構築し、地域の方々が景観への興味を持つきっかけとなるよう働きかけていく必要がある。
		良好な景観の形成のため、景観法、札幌市景観条例及び景観計画に基づく施策の展開		○	○	○	○	○	○	令和6年度 ・「ミュンヘン大橋」「八紘学園ポプラ並木」札幌景観資産に指定 ・「熊の沢公園」「陽だまりロード」「平岡公園」「篠路五ノ戸の森緑地」「川下公園」「白石こころーど」「北野たかくら緑地」「西野緑道」「かつら坂」「前田森林公園」「資生館小学校のオオモミジ」「宮部記念緑地」活用促進景観資源台帳に登録	
		アイヌ伝統文化振興								アイヌ文化交流センターにおける展示やイベントの開催、アイヌ工芸品の展示販売の実施、伝統的生活空間の再生事業（体験講座の開催）などを実施した。 ・アイヌ文化体験イベント開催数・参加者数 R4：15回・880人、R5：15回・1,285人、R6：15回・1,538人 ※R2、3は新型コロナウイルス感染症対策のため中止。 ・アイヌ工芸品展示販売開催日数・購入者数 R2：28日・953人、R3：21日・508人、R4：69日・1,107人、 R5：47日・1,228人、R6：106日・1,277人 ※R2～R5はいずれも臨時開催。R6は12/16から常設販売店を設置。 ・伝統的生活空間の再生事業（体験講座の開催）参加者数 R2：66人、R3：52人、R4:104人、R5：102人、R6：113人 ※R2、3は新型コロナウイルス感染症対策のため事業を縮小。	
		アイヌ民族の伝統的な生活様式や文化などの紹介や市民がアイヌ文化に身近に触れる機会の創出による、アイヌ伝統文化の保存、継承、振興		○	○	○	○	○	○		

目指す姿

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える											
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題		
		事業・施策内容		取組結果					実績等			
活用	Act.4 活用する	「関連文化財群とストーリー」の活用モデルづくり	協議会	R2	3	4	5	6	<div>札幌の文化財や歴史文化が観光資源として活用される機会の創出を目的として、「関連文化財群とストーリー」（「大友堀」、「開拓使」、「札幌オリンピック」）に関連する文化財等を訪れるモニターツアーを実施した。</div> <div>また、旅行事業者、通訳案内士等にヒアリングをし、観光に生かすための課題の整理、検証を行った。</div> <div>・モニターツアーの実績 参加者（一般） R3：16人、R4：10人 参加者（専門家等） R3：9人、R4：10人 ※ R2は、新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催</div>	結果的に市民の参加が多く、観光客の参加者を多く取り込むための工夫が必要。 また、ツアーに参加した旅行会社により、実際に歴史文化をコンテンツとした商品が造成されるなど国内向けの動きとしては一定の成果が上がった一方で、インバウンド対応のための連携体制の構築など今後に向けた課題が見られた。		
		歴史文化のストーリーと、文化財のつながりを生かした多様で新たな活用モデルを見いだす。市民や旅行者等を対象に、今後設定する関連文化財群等をコンテンツとしたモニターツアーを実施し、課題の分析、将来的な収益事業化の検討等を行う		○	○	○	×	×				
		サイン整備、解説等の整備（多言語化）									令和6年度までに「関連文化財群とストーリー」のPR、周遊促進パンフレット「さっぽろ文化財散歩」（8種類）や子ども向けのパンフレット「札幌れきぶん探検隊」（2種類）を作成し、文化財施設や観光案内所等で配架した。 また、札幌観光協会が主体となり、「さっぽろ文化財散歩」に周辺情報の追加や英訳を行ったうえ、同協会が管理するHP「ようこそさっぽろ」に掲載した。	今後設定する関連文化財群とストーリーについても、パンフレットを作成を継続する。
		関連文化財群とストーリー等を生かした文化財の周遊促進のための国内向けパンフレットを作成し、順次多言語化してインバウンドにも対応する		○	○	○	○	○				
		ボランティアガイド育成支援	協議会						観光案内時に文化財などの紹介を行う観光ボランティアや、これから観光ボランティアを目指す市民を対象に、札幌の文化財や歴史文化等に関する講習会を実施した。	文化財等の魅力がより伝わるよう、ガイド技術を実践的に習得できるような形式の検討。 ガイドのなりてのすそ野を広げる活動の検討。		
		札幌商工会議所の観光ボランティア、その他市内文化財施設等で活動する市民等ボランティアのスキルアップ支援等		○	○	○	×	○			<div>ボランティアガイド講習会講座内容：参加人数 ・「ストーリーで学ぶ札幌の歴史（入門編）」（R2）：50人 ・「ストーリーで学ぶ札幌の歴史（応用編）」（R2）：50人 ・「歴史文化の知識と理解を深める講座」（R3）：43人 ・「コミュニケーションアッカアップの講座」（R3）：39人 ・「都心で楽しむ季節の催し・風物詩」（R4）：34人 ・「積雪寒冷地に成立した大都市」（R4）：30人 ・「歴史文化の知識を深める」（R6）：20人 ・「コミュニケーション・楽しむ実践力アップ」（R6）：20人 ※R2は新型コロナウイルスの影響によりオンライン開催</div>	

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える												
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度						取組内容		取組課題	
		事業・施策内容		取組結果						実績等			
				R2	3	4	5	6					
		アイヌ文化交流センターリフレッシュ事業	札幌市	<div></div>						アイヌ文化交流センターにおいて、 ライトコート（中庭）のリニューアル、文化体験コーナーの運営、 展示物の制作や修繕・更新、展示物解説動画の作成などを実施した。	・アイヌ文化交流センターについては、アイヌ民族に関する理解を深めてもらうために、アクセスや施設の魅力の向上、広報の充実を図りながら、展示の更新や各種事業の実施を通じて、来館者を増やすとともに満足度を向上させ、アイヌ文化への興味を高めていく必要がある。		
		老朽化したアイヌ文化交流センターの屋内外展示物等の更新・改修等		○	○	○	○	○	・主なりリニューアル等の内容 R2：展示物の改修、展示物ガイドアプリ導入、翻訳機導入 R3：展示説明プレート設置 R4：屋外展示物（ボンチセ）改修、文化体験コーナー開設、展示物解説動画閲覧システム更新、中庭整備 R5：屋外展示物（ヘペレセツ）改修、アイヌ文化紹介システム更新 R6：庭園リニューアルに向けた改修計画策定、音響システム・映像ガイダンスシステムの一部更新				
		観光資源発掘・魅力創出事業	札幌市	<div></div>						観光コンテンツの創出・磨上げに関する事業としては、「さっぽろ観光魅力創出事業」を令和３年度まで実施し、補助金を交付してきた。	文化財の活用事例は一部に限られる。		
		多様な観光資源の創出による、札幌観光の新たな魅力づくり（夜間観光、食、ツーリズム）		○	○	－	○	○	令和５年度においては「付加価値の高いコンテンツ創出事業」として、札幌ならではの観光資源（食、夜間、自然、文化、ツーリズムなど）を活用し、本市の観光振興に一層の効果が期待される付加価値の高い観光コンテンツ事業に対する補助を実施した。				
		ICTを活用した観光マーケティング推進事業	札幌市	<div></div>						携帯基地局データや参画企業から収集した様々なデータを活用し、札幌への国内・国外観光客の動態分析、各種大規模イベントや市内スキー場への来訪者の居住地などの属性や滞在時間・周遊状況の分析を実施した。	当該事業は、国（総務省及び経済産業省）の補助金を活用し、令和５年度をもって事業対象期間が終了となることに合わせ、当該事業は廃止		
				観光客の滞在時の動きや消費行動等のデータを収集・加工・分析することにより、観光客の動態を的確に把握し、官民協同で活用できる環境づくりを推進	○	○	○	○	－	参画企業数 R2：31社、R3：32社、R4：32社、R5：32社			

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市												
課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える											
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題		
		事業・施策内容		取組結果					実績等			
				R2	3	4	5	6				
		指定管理者による文化財施設の管理・運営	札幌市	<div></div>					時計台、豊平館、旧永山武四郎邸、旧札幌控訴院は計画期間中、指定管理者による管理・運営が行われた。	今後も指定管理者による施設の適切な管理・運営を継続するとともに、来館者等の満足度をより向上させるための自主事業の実施を推進する。		
									各指定管理者において、自らの提案による自主事業等を実施し、施設の設置目的に資する取組が行われた。			
		時計台、豊平館、旧永山武四郎邸、旧札幌控訴院を指定管理者が管理・運営することにより、ボランティアの活用や講座の開催、カフェの運営など柔軟な活用や運営を推進		○	○	○	○	○	自主事業 時計台：開館日拡大、高校生観覧料免除、札幌市民無料デーの実施等 豊平館：貸室事業の拡大、夜間開館日の設定、カフェ運営、グッズ販売 旧永山武四郎邸：カフェ運営、長期的アンケート、国際芸術祭会場 旧札幌控訴院庁舎：イベント実施の広報活動、貸室利用拡大 利用者総合満足度 時計台：R2 98.5%、R3 87.8%、R4 96.3%、R5 97.7%、R6 97.4% 豊平館：R2 85.0%、R3 87.1%、R4 95.5%、R5 94.9%、94.6% 旧永山武四郎邸：R2 99%、R3 97%、R4 99%、R5 97.9%、R6 96.0% 旧札幌控訴院庁舎：R2 91.0%、R3 95.3%、R4 95.5%、R5 95.7%			
		郷土資料館支援の手法検討	札幌市	<div></div>					郷土資料館の認知度やニーズを把握するための市民アンケートや郷土資料館の課題に対する効果的な取組を検討する調査業務を実施した。	郷土資料館パンフレットの作成など、郷土資料館を知ってもらう取り組みは実施することができた。 管理運営を行っている地域の保存会における課題（担い手不足）等については、具体的な取組は実施できなかった。こういった支援が行えるのか、検討を継続していく必要がある。		
									また、郷土資料館の情報発信のため、館を紹介するパンフレットを作成・配布するとともに、郷土資料館の支援策を検討する市民参加のWSを実施した。			
		郷土資料館に来館者を増やし、将来の担い手確保につなげる手法を検討		○	○	○	○	○	R2：市民アンケート調査の実施 R3：市内郷土資料館のあり方に関する調査検討業務 R4：北海道デジタルミュージアムへの登録、インターネット環境整備 R5：市民アンケート調査の実施、郷土資料館紹介パンフの作成、支援策検討WSの実施 R6：子ども向け郷土資料館紹介パンフの作成			
		体験学習施設「丘珠縄文遺跡」の管理・運営	札幌市	<div></div>					体験メニュー「火起こし体験」、「土器の接合・復元体験」を実施。 体験学習「縄文土器づくり」、「勾玉づくり」、「土器の野焼き」を開催。 新たな体験メニュー「組みひもストラップづくり」をイベント時に開催。 ボランティア養成講座を5回開催（うち1回は公開講座として一般に公開）。 北海道大学考古学研究室と連携して丘珠縄文遺跡の発掘調査を実施。 発掘調査中の遺跡を一般向けに公開する「遺跡公開デー」をボランティア、北海道大学考古学研究室と連携して開催。 さとらんどホームページ・SNSによる周知広報を実施。	新たな利用者を増やすための認知度を高める取組や、リピーターを獲得するための魅力ある取組を今後も継続していく必要がある。		
		遺跡を活用した施設での火おこし、土器づくりなどの体験や、土器、石器等の展示、ボランティア養成等		○	○	○	○	○	来場者数 R2：25,060人、R3：9,881人、R4：42,372人、R5：50,776人、R6：49,781人 火起こし体験 R2：1,200人、R3：304人、R4：2,527人、R5：3,399人、R6：3,500人 遺跡公開デー R2：1,517人、R3：中止（コロナ緊急事態宣言）、R4：789人、R5：1,552人、R6：1,284人			

目指す姿

文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える										
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題	
		事業・施策内容		取組結果					実績等		
				R2	3	4	5	6			
		博物館活動推進	札幌市	<div></div>					（仮称）札幌自然史博物館整備に向けて必要な調査検討を実施するとともに、博物館活動センターにおける博物館の基本的な活動（資料の収集と保存、調査研究、普及交流・展示）を継続して実施した。	・ R6文化芸術意識調査で博物館活動センターの認知度が17.1％（前年比＋1.4ポイント）と低く、さらなる認知度向上が必要。 ・ このため、都市部での博物館活動や民間事業者との連携を通じたアウトリーチ型事業を展開し、市民周知とファン獲得を進める必要がある。 ・ 将来を見据え、持続可能な博物館運営を実現するため、先進事例の調査や民間事業者の活用、継続的な集客策の検討が必要。	
		自然史系総合博物館の計画推進のため、石狩低地帯を活動域に、人材、実物資料、情報を蓄積し成長・発展する活動を展開		○	○	○	○	○			博物館活動センター事業参加者数 R2：2,921人／R3：3,382人／R4：12,734人／R5：12,984人／R6：13,619人 ※R2・3年度はコロナでイベント等の縮小・中止の影響による（参考R1：13,164人）
		市民に多様な学習機会を提供	教育委員会	<div></div>					新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、講座を中止した期間のある年度もあったが、対策を講じながら、生涯学習センターや地区図書館などの市民に身近な施設で、様々な講座を実施した。 この中で、市民活動やビジネスの他、文化・歴史・芸術など、幅広いテーマの講座を企画・実施した。	1 講座あたりの受講者数が減っていることから、例年実施している講座も地域ニーズや時代の変化を捉えた内容にアップデートするなどにより、より魅力的な講座となるよう内容を検討していく。また、多くの市民に興味を持ってもらえるような講座タイトルの設定とするなど、広報の方法も併せて検討していく。	
		生涯学習総合センター「ちえりあ」を拠点に、市民の多様な学習ニーズに対応する学習機会を提供		○	○	○	○	○			令和2年度■107講座（1,238名） うち文化・歴史・芸術 13講座（227名） 令和3年度■82講座（1,127名） うち文化・歴史・芸術 7講座（142名） 令和4年度■201講座（3,331名） うち文化・歴史・芸術 22講座（514名） 令和5年度■203講座（3,834名） うち文化・歴史・芸術 17講座（517名） 令和6年度■207講座（3,829名） うち文化・歴史・芸術 12講座（368名）
		パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）の開催		<div></div>							若手音楽家を育成する「教育事業」、成果の発表や教授陣の演奏を鑑賞できる「演奏会事業」、わかりやすくクラシック音楽に触れていただく「音楽普及事業」を実施した。但しR2については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。一方で、PMF2021機運醸成事業としてオンラインイベント等を実施した。
		北海道の夏の風物詩であり、豊かな風土に根差した世界へ発信する文化事業として北海道遺産に選定された、札幌コンサートホール（Kitara）や札幌芸術の森、文化財施設等で催される、世界各国から選抜された若手音楽家による演奏会の開催		×	○	○	○	○			

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市										
課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える									
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度					取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果					実績等	
連携・協働 現状では、関係者 同士のネットワー ク構築が不十分 で、文化財の保 存・活用において 関係者が連携する 機会 は 限 定され ています。関係者 同士のつながりを 強化し、方針を共 有することで、社 会全体が一体感を もって取り組む体 制整備が急がれま す。	Act.5 つ な が る	保存・活用に関する課題解決支援	協議会						協議会が開催した市民ワークショップではオブザーバーとして観光団体や街歩き専門家の方などが、モニターツアーでは観光事業者や通訳団体の方などがそれぞれ参加し、文化財の活用に係る交流の機会となった。	ワークショップやモニターツアーの開催が、専門家や観光事業者といった文化財を活用する方たちの交流の機会となったが、専門家の知見を民間等が持つ課題の解決につなげる相談機会を創出するまでには至らなかった。
		協議会によるネットワークを活用し、民間等による文化財の保存・活用の課題解決につなげる相談機会の創出		○	○	○	○	○	市民ワークショップに参加したオブザーバー数（延べ人数）：9人 モニターツアーに参加した専門家の人数（延べ人数）：19人	
		関係者と経済観光団体等の交流機会創出							協議会が開催した市民ワークショップやモニターツアー、シンポジウム等において、専門家や観光団体等の参加があり、交流の機会を作ることができた。 協議会が開催した事業に参加した団体数：13団体（～R6） 参加団体名 北海道文化財保護協会、札幌軟石ネットワーク、札幌建築鑑賞会 等	
		協議会によるネットワークを活用した関係者の交流を促進し、文化財の保存・活用に関する新たなアイデアの発見や手法の確立につなげる	協議会	○	○	○	○	○		ワークショップ、モニターツアー等を開催し、専門家や観光団体等に参加していただくことで、交流の機会を作ることができたが、新たな文化財の保存・活用の取組につながるような仕組み等の検討までには至らなかった。
		札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会の運営	札幌市						R2.3月に、札幌市文化財保存活用地域計画で目指す姿の形成に寄与するため「札幌市歴史文化のまちづくり推進協議会」を設置。会員は札幌市、一般社団法人札幌観光協会、札幌商工会議所で、アドバイザーは文化財及び歴史文化に関する専門家3名に委嘱している。 協議会は、札幌市が事務局を担い、適宜協議会を開催し、会員やアドバイザーの意見を踏まえながら関連文化財群及びストーリーを設定するなどの事業を行った。	協議会の活動内容について会員それぞれの立場からご意見いただき、また関連文化財群等の設定にあたってはアドバイザーの意見も交えながら、進めることができた。 今後も、より効果的な取組を実施するため、持続可能な協議会体制の整備などの検討が必要。
		札幌市・経済観光団体・文化財に関する活動を行う団体等で構成する協議会により、文化財の保存・活用に連携・協働して取り組む体制整備を推進		○	○	○	○	○	協議会開催数 R2：3回、R3：4回、R4：2回、R5：2回、R6：2回 協議内容：協議会事業計画、関連文化財群及びストーリーの設定 協議会で実施した事業 ・関連文化財群及びストーリーの設定（R2～R4、R6） ・市民ワークショップ（R2～R6） ・ボランティアガイド講習会（R2～R4、R6） ・文化財モニターツアー（R2～R4） ・シンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」（R2～R6） ・関連文化財群等のPR・周遊促進パンフレット作成（R2～R6） ・「ようこそさっぽろ」（※1）にパンフレット掲載（R3～R6） ・「札幌バーチャルストリート」（※2）等で3DVR公開（R4～R5まで） ・郷土資料館支援策検討ワークショップ（R5） ・未指定・未登録文化財（建造物）調査及び評価業務（R5） ・郷土資料館子ども向け案内冊子作成（R6） ・北海道デジタルミュージアム多言語化事業（R6） ※1 札幌観光協会が管理する札幌観光情報サイト ※2 札幌商工会議所が管理するHP	

目指す姿 文化財の価値を多くの市民が共有し、大切に次の世代へ引き継いでいく、歴史文化の魅力あふれる都市

課 題	基本方針２ 社会全体で文化財を大切に使いながら、次の世代へ伝える										
	措置	事業・施策名称	取組 主体	取組計画年度						取組内容	取組課題
		事業・施策内容		取組結果						実績等	
				R2	3	4	5	6			
		重要文化財 北海道庁旧本庁舎（赤れんが庁舎）保存活用計画との連携	北海道							協議会が開催した「さっぽろれきぶんフェス」の会場において、赤れんが庁舎の保存活用計画に関する取組を照会するパネル展示を行い、来場者への周知を行った。	パネル展示にとどまり、それ以上の積極的な連携がなかった。
		赤れんが庁舎の歴史的価値を保存し、末永く後世に伝えていくとともに、道民の貴重な財産として今後もより一層有効に活用していくための計画との連携									
				○	×	○	○	○			
		北海道大学キャンパスマスタープラン2018との連携	北海道 大学							令和３年２月に協議会が開催したシンポジウム「さっぽろれきぶんフェス」会場において、キャンパスマスタープランに関する取組を紹介するパネル展示を行い、来場者への周知を図った。	パネル展示にとどまり、それ以上の積極的な連携がなかった。
		札幌キャンパス南ゾーンの登録有形文化財建造物群等（古河講堂、旧農学部図書館、旧昆虫学教室等）の歴史・文化的価値を再評価し、民間資金等の多様な財源を活用して地域の知の拠点となる空間への転用を図る「キャンパス・ミュージアム計画」との連携									
				○	×	○	×	×			
										パネル掲示（年度） R2、R4、R5、R6	
										パネル掲示（年度） R2、R4	

文化財施設等保全事業について

令和 7 年 7 月 30 日現在

1. 概要

文化庁が所有する文化財施設及び郷土資料館について、計画的な保全を行うために、保全計画に基づき改修工事等を実施する事業。耐震化未実施の施設については、耐震診断を実施し、保全改修にあわせて耐震改修を行うほか、防災施設整備を行う。

2. 経緯

これまで、豊平館や旧永山武四郎邸のように個別に事業化したものを除き、各施設における修繕は、予算の範囲内で事後修繕を行ってきたが、文化財施設の適切な保存のためには、予防的修繕が重要であるという認識のもと、平成 29 年度に「文化財施設等保全事業」として事業化した。

平成 31 年度までに一部を除き文化財施設等の保全計画を策定し、修繕の緊急度や予算の平準化を考慮した全体の年次計画を取りまとめた。

令和 2 年度には、耐震化未実施の施設の耐震改修を事業として新たに位置付けたほか、対象を文化財課所管の郷土資料館まで広げることとした。

また、国内外の文化財における大規模火災（平成 31 年 4 月：ノートルダム大聖堂、令和元年 10 月：首里城）を契機に、文化庁が令和元年 9 月に「国宝・重要文化財（建造物）等の防火対策ガイドライン」を、令和 3 年 12 月には「重要文化財（建造物）等防災施設整備事業（防災施設等）指針」を策定し、防災施設整備を推進するとしてことを受け、令和 6 年度からは、国指定重要文化財（建造物）における追加の防火対策検討を行っている（重要文化財以外の文化財についても順次検討を進める）。

＜文化財施設等保全事業の対象施設＞

国指定	豊平館、八窓庵（旧舎那院忘筌）、琴似屯田兵村兵屋跡（史跡）
道指定	旧永山武四郎邸（合築の旧三菱鉱業寮は国登録有形）
市指定	新琴似屯田兵中隊本部、清華亭、旧黒岩家住宅（旧簾舞通行屋）
郷土資料館	手稲記念館、札幌村郷土記念館、つきさっぷ郷土資料館

3. これまでの実績

平成 30 年度：過去に策定済みである時計台、豊平館、琴似屯田兵村兵屋跡、旧永山武四郎邸、清華亭、旧黒岩家住宅の保全計画の時点修正。

令和元年度：八窓庵（一部）、新琴似屯田兵中隊本部（一部）、旧三菱鉱業寮（すべて）の保全計画策定、全体計画の策定

令和 2 年度：豊平館付属棟、札幌村郷土記念館の保全計画策定、計画に基づく修繕実施、清華亭の耐震診断実施

- 令和3年度： 清華亭の耐震改修基本検討、計画に基づく修繕実施
- 令和4年度： 清華亭耐震・保存修理実施設計、旧黒岩家住宅耐震診断、計画に基づく修繕実施
- 令和5年度： 清華亭耐震・保存修理工事、旧黒岩家住宅耐震・保存修理基本検討、計画に基づく修繕実施
- 令和6年度： 旧黒岩家住宅耐震・保存修理実施設計、豊平館防火対策概略検討、計画に基づく修繕実施

4. 令和7年度の計画

	施設名	概要
修繕	豊平館	連結送水管修繕、漆喰壁修繕
	旧永山武四郎邸	屋根塗装改修、棟飾り修繕
	新琴似中隊本部	外構修繕
	手稲記念館	展示用スポットライト LED 更新
耐震	旧黒岩家住宅	耐震・保存修理工事（着工時期調整中）
	琴似屯田兵村兵屋跡	耐震診断
防火	豊平館	防災設備改修工事実施設計
	八窓庵	防火対策概略検討

5. 今後の課題

（1）計画的予防修繕

- ・外壁や内装等の建築に係る修繕のほか、電気設備・機械設備の更新について順次行っていく計画であるが、資材の高騰や木工事・左官工事等の職人不足に伴う修繕費用の増加のほか、設計業者や施工業者の人手不足に伴う入札不調等により、予定年度に実施できないケースが発生している。
- ・設備等の故障や虫害により、突発的な修繕が必要となる事案も発生しているが、この場合に必要となる予算は予め措置されていないため、予定していた計画修繕の規模を縮小するなど、既往予算の執行の工夫で対応している状況。

（2）耐震改修

- ・耐震化事業は、来館者数の多い施設から順次計画しているところであり、上表にある旧黒岩家住宅、琴似屯田兵村兵屋跡に続いて、新琴似屯田兵中隊本部を予定している。
- ・耐震改修工事は、数か月～1年程度の休館を伴うため、事前調整、周知、休館中の対応（代替展示等）のほか、工事中の防火対策を検討する必要がある。
- ・工事では、壁を解体して補強するなど、大掛かりな改修になることが見込まれるため、文化財的価値を損ねることなく、可能な限り既存材料を使用するなどの対応が求められる。

時計台保存修理事業について

令和7年7月30日現在

1. 概要

札幌のシンボルである時計台について、貴重な文化財として将来に継承していくとともに、観光施設としての魅力アップと更なる集客を図るため、保存修理等を実施する。

2. 経緯

平成7年1月～10年9月にかけて実施した耐震補強を含む保存修理工事以降、休館を伴う大規模な修繕は実施していなかった。

アクションプラン 2015 に「時計台魅力アップ推進事業」を位置付け、令和2年度に、休館を伴う大規模改修工事（外部・内部）を計画していたが、外壁の経年劣化の進行が著しかったため、平成30年度に5か月間休館（6～10月）して、外部改修のみ先行して実施。残りの内部改修については、短期間に2度の休館を避けるために後年度に実施することとしており、現時点では令和10年度以降での保存修理工事の実施を計画している。

今回の保存修理工事までの対応として、開館しながら改修できる範囲のみ「文化財施設等保全事業」の中で実施することとし、令和元年～4年度の間に、消防設備の更新や照明のLED化工事等を実施した。

3. これまでの実績（令和元年～4年度は『文化財施設等保全事業』として実施）

平成29年度： 外部改修工事の実施設計

平成30年度： 外部改修工事

令和元年度： 指定管理者が消防設備の一部更新

令和2年度： 札幌市が残りの消防設備を更新

令和3年度： 電気火災警報設備機器設置、簡易冷房機器の試行導入

令和4年度： 天井照明のLED化

令和5年度： 防火対策概略検討、外壁劣化目視調査

令和6年度： 保存活用計画策定（1年目）、暑さ対策検討、トイレ棟屋根防水修繕

4. 令和7年度の計画

- ・保存活用計画策定（2年目）

今年度末に保存活用計画を文化庁に提出する予定。

5. 今後の課題

（1）保存修理工事

- ・保存活用計画が文化庁で受理された後、基本設計・実施設計で保存修理工事の詳細を決定していくこととなる。
- ・これら設計業務に入札不調等による遅れが発生した場合、設計の進捗に伴って具体化することができる休館時期や休館中の対応等についても決定が遅れ、関係各所に広く影響を与えるため、確実な事業の遂行が求められる。